

薪ストーブの苦情について

～迷惑がられる煙の家は、暖まらない
そして、薪を知らないうちに捨てている。～

化石燃料を使用しない薪ストーブは、地球温暖化防止対策として有効ですが、近年、煙、臭いやススの飛散による苦情が、寄せられるようになりました。薪ストーブの煙の影響で、外に干した洗濯物に臭いがついたり、窓を開けると部屋が煙たくなったりする。使用している煙突を中心に、半径約30メートルは煙の臭いが感じるとされています。

主な「煙の苦情」の原因とされる例

薪が乾燥していない
・薪が大きい



対応策は
2ページへ！

薪を入れ過ぎている



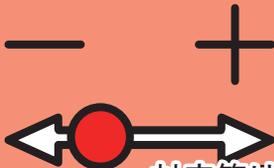
対応策は
2ページへ！

着火から適温になるまで
時間がかかっている



対応策は
2ページへ！

空気調節を
絞りすぎている



対応策は
2ページへ！

添加物の含まれた
木材の使用



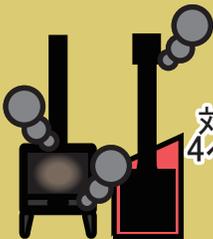
対応策は
2ページへ！

木質以外の
家庭ごみ等の燃焼



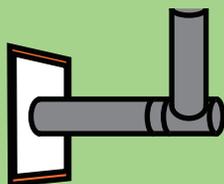
対応策は
2ページへ！

煙突・本体の
定期点検をしていない



対応策は
4ページへ！

煙突プランが、
屋外に貫通後も
シングル煙突等の使用



対応策は
4ページへ！

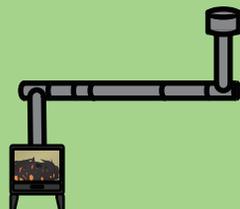
ストーブ本体の
燃焼効率が悪い
・二次燃焼がない



対応策は
4ページへ！

煙突が短いもしくは、
横引きが長い

対応策は
4ページへ！



注意が必要です！

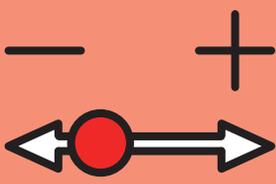
以下の対処法を実践する前に煙突の点検をしてください。
高温になる場合がございます。その際、煙突内部に可燃性の高いススがある場合、高温により引火し煙導火災の原因になります。
必要であれば煙突掃除などを行ってから以下の焚き方を行って下さい。

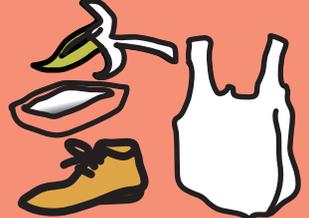
以下の対策は専門業者でなくても、簡単にできる対処法となります。
解説をしながらご案内していきます。

- 薪が乾燥していない・薪が大きい

- 薪を入れ過ぎている

- 着火から適温になるまで時間がかかっている

- 空気調節を絞りにすぎている

- 添加物の含まれた木材の使用

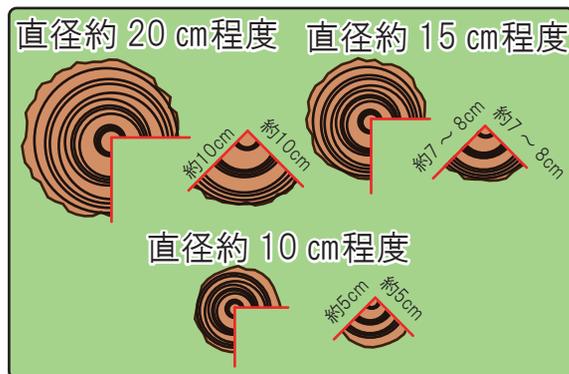
- 木質以外の家庭ごみ等の燃焼


① 薪の乾燥と大きさについて

薪の乾燥は含水率 20%以下の薪を利用してください。
外から持込んですぐの薪は氷点下の場合もあります。
使う分は前もって室内に準備しましょう。



薪の大きさについて。太い薪・中太薪・細い薪・焚付薪と準備すると・・・4種類になります。
サイズが太い薪で「扇形で1辺の長さが10cm（直径約20cmの1/4）」程度、中太薪で「扇形で1辺の長さが7～8cm（直径約15cmの1/4）」程度、細い薪で「扇形で1辺の長さが5cm（直径約10cmの1/4）」程度、焚付薪は小口2～3cm程度のものが望ましい。
※直径に相当する太さです。あくまでも目安になります。



② 薪を入れ過ぎている

薪ストーブの空気調節レバーは設計上、火室内（薪が燃える炉内）の約半分量の薪を燃やすための構造になっています。

焚き付け以外の薪の投入量は、火室内（薪が燃える炉内）の床と天井高の半分量を最大の量とし、焚き始めは、焚付薪等で高さ半分以上あっても構いません。

③ 着火から適温になるまで時間がかかっている

焚付薪等を準備し、着火して^{※1}ストーブトップ温度計で200℃を越えるまで、時間にして^{※2}30～40分を目安に温度を上げる。低温の温度帯は煙突を詰まらせる原因であるクレオソートが多く発生してしまいます。それとともに低温の為、煙も多く発生します。焚き始め、低温度帯の時間帯を短くすることで煙の問題とススの問題が解消するでしょう。

※1 ストーブトップ温度計とは？

ストーブ温度計には主に2種類があります。

- ストーブトップ温度計・・・
ストーブ本体の天板で煙突付近、もしくはメーカー推奨天板位置に置くもの。
 - ストーブ温度計・・・ストーブ表面のメーカーが推奨する位置、または煙突等に取り付けるもの。
- 上記の200℃まで温度を計測する際は、ストーブトップ温度計をご利用ください。

※2 30～40分を目安に温度を適温まで上げる。

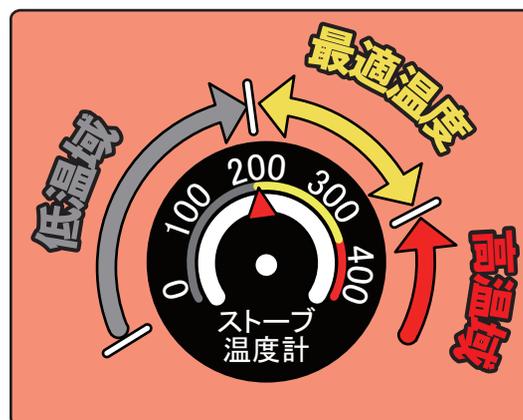
鋳物製薪ストーブの場合、ストーブ自体のサイズもありますが、30～40分を目安に200℃(最適温度”BESTZONE”)まで上昇させることをおすすめします。

- 各材質による温度上昇の時間
- ・鋼板製ストーブ 20～30分
 - ・鋳物製ストーブ 30～40分
 - ・天然石ストーブ 50～60分

④ 空気調節を絞りすぎている

薪ストーブの空気調節レバーは設計上、火室内(薪が燃える炉内)の約半分量の薪を燃やすための構造になっています。温度計を用い200℃(最適温度”BESTZONE”)以上になってから空気調節レバーが調節可能になります。煙が多く出てしまう場合は、新しく薪を追加されたとき、しっかりと空気を取り込まなければいぶしてしまう事となり、嫌な煙りが発生してしまう。

追加した薪に対してはまず、レバーを全開にし、ドアを開け追加薪を投入後、5分程度ドアを1cm程開け、しっかりと空気を送り込みます。ドアを閉めても追加薪の炎が消えない程度まで開けておく。空気調節レバーを閉める際は必ず、温度計を確認し、200℃以上になっていることを確認して、お好みのレバー位置まで下げてください。



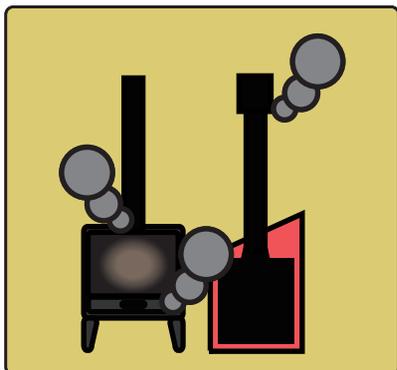
⑤ 添加物の含まれた木材の使用

防腐注入材・木材保護着色塗料・木材保護塗料・ペンキ塗料など、油性水性に関係なく、燃焼することにより不快な臭いや黒煙を出すことがあります。使用をひかえましょう。

⑥ 木質燃料以外の家庭ごみ等の燃焼

プラスチックなどご家庭内で出されるゴミは条例に従って分別し処分しましょう。上記同様に、不快な臭いや黒煙の原因になります。また、薪ストーブを損傷させる恐れもあります。新聞紙などは着火時のみ使用されても構いません。牛乳パックなどは内側に塗布されたコーティングは「パラフィン」いう成分で着火剤と同じ成分ですので安心してお使いいただけます。

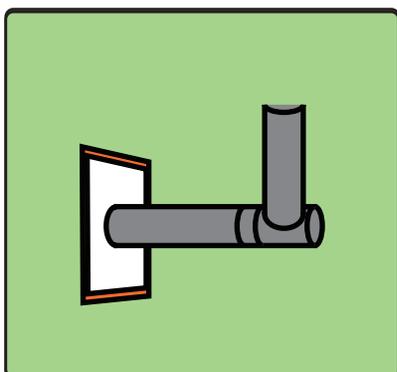
7 着煙突・本体の定期点検をしていない



薪ストーブの煙突掃除は1年に1度行いましょう。その際、本体も確認しましょう。内部清掃や目視により、ススの状況を把握するようにしましょう。頻繁にガラスが煤けてしまっていたり、煙突や本体に光沢のあるクレオソートが多く付着している場合は、普段から低温燃焼の傾向があります。黒煙や白煙を多く排出している場合があります。気になる場合は、専門業者にお問合せを下さい。

以下の対処法は、専門的な知識と技術が必要となります。
お近くの専門業者さんにご相談ください。

8 煙突プランが屋外に貫通後もシングル煙突の使用



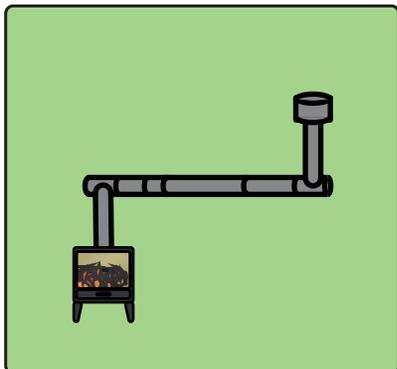
煙が外気に触れる事によりクレオソートが多く発生し、煙突内部にも溜まってしまいます。煙突内部の煙がスムーズに排出されず、燃焼が思うほど起こらなくなります。本体で燻された不快な煙は外に排出されます。また、溜まった燻された煤は木酢液なども発生し、その後、無理な燃焼を続けると、火災の原因にもなります。

9 ストーブ本体の燃焼効率が悪い・二次燃焼がない



燃焼効率が良いストーブを選びましょう。海外では各国の環境保護機構などの定める熱効率基準をクリアしたもの以外は自国では使えません。炉内や二次燃焼スペース内で徹底的に燃焼した煙を排出するストーブの煙は、適正な薪の利用・適正な利用方法・適正な施工がなされていれば無色であり不快な薪ストーブの臭いはありません。

10 煙突が短いもしくは、横引きが長い



煙突の長さはストーブの機種にもよりますが、4m以上が望ましいとされています。短い場合は適切な燃焼が行われないうえ、燃焼効率を発揮できず不快な煙の発生につながります。また、横引きの長い煙突は上昇気流が起こりにくい上に、⑧でもご案内の通り、煙突内部の煙がスムーズに排出されず、燃焼が思うほど起こらなくなります。本体で燻された不快な煙は外に排出されます。横引きと垂直（縦）の比率は・・・
横：縦＝1：3、横に1mあれば縦に3mは確保して下さい。

煙突から排出される煙がキレイであること。
それは、炉内でしっかり燃えているということ。
しっかり燃えている薪ストーブの家は暖かい。